東書　一年上　　・二とく・六とく中心に

だれが、たべたのでしょう

一時間目　◎　**区画**　写真に合わせて計七区画

二　とく

○　題目

・　森や山での体験（鳥・昆虫・草花……）

・　木の下で見つけた？の物三つ。

①胡桃　③松ぼっくり　⑤木の葉

・　写真を見ながら？について問答。

胡桃（堅殻の穴）松笠（笠？）葉（？）

・　それをした動物三匹は。

②ねずみ　④りす　⑥むささび

◎　ひびき

・　この三匹の食事風景を見るのは難しい。

食事風景が見やすい動物も二匹。

⑦しか　うさぎ

・　動物によって食べるものが決まっている。食べた跡でも動物が分かる話。

○　手引き

・　胡桃と鼠のところを書いて勉強する。

六　とく

○語義・区分　**もの**もある　各二区分

◎心

・　ふしぎ大発見は、何番か。（②　？）

・　何を見たからか。（からのあな）

・　その答えは。（③　◎）

・　「たべます」何を、その方法。（文法）

・　ここで、ふしぎ再発見。（穴あけ）

・　調べられる人は、調べて教えてね。

〈板書事項〉

だれが、たべたのでしょう

1 くるみ　2 ねずみ　3 まつぼっくり　4 りす　5 木のは　6 むささび　7 くさ　しか　うさぎ

①　くるみのからが、おちています。

あなのあいた

め　②　ものもあります。

だれが、くるみを

たべたのでしょう。

?　◎

③　ねずみが、くるみを

たべたのです。

④　ねずみは、からに

あなをあけて、

なかみをたべます。

ほ

＊最後に暗唱させたい。

二時間目

二　とく

○　おさらい（略画を描きながら）

・　ねずみが穴を開けたのは。（胡桃の殻）

・　その不思議を調べた人は。（児＋補説）

・　他に鼠のような歯がある動物。（りす）

・　実は、りすもむささびも鼠の仲間。

◎　承接

・　りすは主にどこで生活を。（樹上）

・　木の上で餌になる物は何か。（木の実）

・　松ぼっくりのどこを食べる。（周＝種）

・　むささびの生活も木の上。得意なこと。

（空を飛ぶ→隣の木）

・　木の上で餌になる物は何か。（実・葉）

○　手引き　（4・6を書く。）

・　りすとむささびの所を書いて勉強する。

六　とく

○語義・区分　～だけ　各二区分

◎心

・　りすと人の食べ方が同じ、何と。

トウモロコシ（○周り実・x芯）

・　松笠の笠の中に実があるからです。

・　「たべます」何を、どのように。

（「木のはを」「かみきって」）

・　「木のは」のどこを。（まんなかだけ）

・　いつも、真ん中だけを食べるのか。

・　そうではない。（こともある。）

・　新芽や若葉が好き。（人も食べる）

・　鹿のことを書いてみよう。口頭作文。

☆　食べた跡以外に残す物も探すと楽しい。何？

〈板書事項〉

略画しながら　①何の絵か（鼠を誇張して）
②穴（〇）③胡桃（殻の縞も）④前歯を描く
⑤なかみ

まつぼっくり

りすが、まつぼっくりを
たべたのです。
りすは、まつぼっくり
のまわりだけをたべて、
しんをのこしました。
たべません。

木のは

むささびが、木のはを
たべたのです。
むささびは、木のはを
かみきってたべます。
はのまんなかだけを
たべることもあります。

くさのは

しかが、くさのはを
たべたのです。
しかは、くさのはを
かみきってたべます。

＊最後に暗唱させたい。

立案にあって考えたこと

問いと答えという形式で書かれている。
問いの作り方の学習の基礎を学びたい。
答えも、二文か三文になっている。
先ず、答えをいい、追加の説明を加える。
これは、話し合いの基本パターンである。
そのためには、その仕組みを分からせる。
そして、使い慣れることが大事である。
その指導には、音読・視写・文の合成分解・暗唱と一連の活動が有効である。
この教材は、森や山での自然体験で得た不思議を調べて（実地・本等）見ようという動機づけになる指導をしたい。他の自然を対象とした絵本等を見てみようという読書案内としてもよいだろう。とにかく好奇心を喚起させたい。

メモ